令和６年度
外部評価実施報告書
（対応報告書を含む）

令和６（2024）年　９月

中国学園大学・中国短期大学

Ⅰ．中国学園大学・中国短期大学の外部評価について

１．本学園の外部評価制度について

本学園では、７年毎の認証評価機関による認証評価とは別に、内部質保証の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言をいただくために、令和４年（2022）年度から外部評価を実施することとなりました。

本学園の外部評価は、委員会規程にあるように、３名の有識者に外部評価委員を委嘱し、本学園の内部質保証の取組及び自己点検・評価の結果について検証・評価をしていただきます。主な評価の観点は、以下の４点です。

１．本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について
２　本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について
３．本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について
４．その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

２．令和６年度の外部評価について

(1) 令和６年度の外部評価委員

外部評価委員会規程に基づき、３名の学外有識者に外部評価委員をお願いしました。いずれの方も昨年度に引き続いてご就任いただきました。

氏　　名	所属等	備考
赤松　一樹	岡山県立和気閑谷高等学校　校長	教育機関の教職員として
田中　宏典	山陽新聞社取締役 読者局長	経済界の有識者として
森田美智子	元本学非常勤講師（～H29） 本学公開講座指導者 岡山市北区撫川在住	大学のキャンパスが所在する地域の有識者･本学卒業生として

（２）外部評価委員による「外部評価報告書」の作成

３名の外部評価委員には、事前に以下の資料をお渡ししました（令和６年８月初旬)。

1）令和５年度中国学園大学及び中国短期大学の自己点検･評価報告書 外部評価用に両報告書の内容を合わせて２０ページ余りに圧縮したダイジェスト版
2）令和５年度学生生活実態調査（抜粋）
3）令和５年度前期学生による授業評価アンケート集計結果（抜粋）
4)「大学案内」
5)「学園広報誌しらさぎ」第 58 号

外部評価委員にはこれらの評価資料をご検討いただき､「外部評価報告書」を作成していただきました（令和６年９月中旬)。

（３）外部評価委員会の開催

令和６年９月２５日、外部評価委員にお集まりいただき、学内にて外部評価委員会を開催しました。本学からは学長をはじめ幹部が出席し、委員から外部評価をいただくとともに、本学の取組についてご意見をいただきました。

＊外部評価委員会大学側出席者

学長	加賀　　勝		図書館長	平井　安久
副学長	住野　好久		現代生活学部人間栄養学科長	多田　賢代
事務局長	阿藤　俊二		子ども学部子ども学科長	中田　周作
事務部長	片山　明浩		国際教養学部長	藤代　昇丈
教務部長	齊藤　佳子		総合生活学科長	韓　　在都
学生部長	佐々木公之		保育学科長	土田　　豊
入試広報部長	梅田　和男		情報ビジネス学科長	五百竹宏明
就職支援部長	山口　裕行		総務企画課主査	矢吹　淳子

（４）「外部評価実施報告書」の作成

各委員からいただいた「外部評価報告書」及び外部評価委員会にていただいたご意見・提言等と、本学の対応をまとめた「外部評価実施報告書」を作成します。これまでは、「外部評価対応報告書」を作成しておりましたが、その内容も本報告書に含めます。

本報告書は本学のＨＰに公表いたします。

Ⅱ．外部評価報告書

＜赤松一樹委員（岡山県立和気閑谷高等学校校長）＞

１．本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

【全　　学】

・授業評価アンケートから、前期の授業出席率が高いことは評価できるが、後期になると大学、短期大学ともに「全て出席した」学生が 1/2 を下回っている。後期に出席率が下がる原因等をどう分析し対策しているか。

・学修時間・学修実態調査によると、授業理解度が総じて高いことは素晴らしいが、授業外の学習時間が少ない学生が多いのは残念である。

【中国学園大学】

・人間栄養学科について、学修時間・学修実態調査によると、「授業は進度が速くてついていけない」「授業は難しくてついていけない」が約半数を占めるが、単位の修得や資格取得には影響していないのか。また、そういった学生に対するフォロー等はどうしているか。

・臨地実習や附属こども園での実習、商工会議所等と連携した教育など、実践的な教育活動が多く取り入れられていることは素晴らしい。特に、国際教養学科の JA と提携した付加価値の高い農業を育成する人材養成は、他学等にはあまり例がないように思うが、選択者はどのくらいいるのか。貴学の特徴的な取組として一層の充実を期待したい。

２．本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

【中国学園大学】

・管理栄養士資格や保育士資格をもつ院生による TA としての指導や上級生による SA としての学修支援はよい取組だ。この取組によって学生への影響や成長にどのような成果が得られているか。

・臨床発達心理士による健康相談等は学生にとってよい取組だ。３年、４年の利用者が多く、相談等の内容は学業、人間関係、心身の健康が多いが、こうした心身の不調を訴える学生を少なくする（予防的な）方策等には取り組んでいるか。

【中国短期大学】

・入学時に入学後に求められるスキルを高める課題等を与えているとあるが、入学後にどのような成果が得られているか。また、優秀な学生に対して個別の支援がなされているとあるが、どのような成果が得られているか。

・臨床発達心理士による健康相談等の短期大学学生の利用状況はどうか。また、課題はあるのか。

３．本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

【全　　学】

・多くの地方公共団体や地域企業等と連携協定を締結し、地域貢献していることは評価に値する。地域と連携した活動に多くの学生が参加し、学生の学びに活かされたり、学生の変容に繋がったりする取組が多く行われることを期待する。

４．その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

【全　　学】

・定員充足率を高めることが大きな課題であり、そのためには、受験生に大学、短期大学の魅力を如何に発信するかが重要だと考える。ホームページを拝見すると、デザイン等にも注力し、入試やオープンキャンパス等の情報は充実していると感じるが、中国学園ならではの魅力を発信し、他学との差異化を図る工夫が不足しているように感じる。入試やオープンキャンパス等の情報は、志願するつもりで閲覧する高校生には関心が高い内容だが、大学調べの段階で閲覧する高校生には、学生が生き生きと学ぶ様子や学びの内容、学内の施設等の情報をもっと発信して貴学に興味や関心をもち、中国学園で学生生活を送りたいと思ってもらえる広報とすることが必要ではないか。

・各学科では、多くの資格等を取得できることが大きな魅力の一つだが、資格を取得するとどのようなキャリアが得られるのかなど具体的な姿がみえるとよいのではないか。また、資格等の取得は、その学科の学びの中でどのような位置づけなのか、どのくらいの学生が取得しているのかなどの情報を発信してはどうか。

・施設等で行う臨地実習や商工会議所や JA と連携した学びは、他学にはあまりない特徴的な学びだと思うが、その学ぶ様子や成果などの発信を充実させてはどうか。

＜田中宏典委員（山陽新聞社取締役読者局長）＞

１．本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

中国学園大学、中国短期大学ともに「自律創世」を教学理念として、知識、情操、意思をバランスよく備えた人材育成に向けて教育活動・教育課程に反映されている点は素晴らしいと感じる。一方で、数年にわたり定員充足率を満たしていない状況の改善は喫緊の課題。「大学の売り」を明確化するための一方策として、少子化はさらに一層の進展が見込まれる中、高校生のみならず、リスキリング・キャリアアップを考えている社会人を学生として受け入れられるカリキュラム構築を検討してもいいのではないだろうか。そのためには、学び方の選択肢を増やすことが不可欠。たとえば、高齢社会の中、２年間で介護福祉士の受験資格が得られる中国短大の総合生活福祉コースは大きな強みであり、働きながらでも学びやすいように柔軟なカリキュラムを編成し、さまざまな状況の学生を受け入れられる仕組みを検討してはどうか。さらに、社会人学生のモデルになる人を１～２人選び、特別に奨学金でサポートして成果を出させ、それを積極的に広報して、大学の知名度・魅力アップを図るのもいいのではないかと思う。

２．本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

中国学園大学・中国短期大学ともに行っている「オフィスアワー」は大変いいことだと思うし、短期大学において、過去３年間の授業科目の満足度が 90%後半という点は素晴らしい。

学生にとって、就職活動さらには社会に出てから役立つような質の高い授業に向けて、「聞く、話す、読む、書く」の４技能を伸ばす内容を盛り込むことを提言する。中国短期大学の保育学科と総合生活学科、中国学園大学人間栄養学科では、山陽新聞社と提携して

新聞を活用した講座を盛り込んでいる。アンケート結果を見ると、学生たちの満足度は高く好評である。いまの子どもたちは、活字離れにより日本語理解力が落ちていることが指摘されている。このため、新聞活用講座などを通じて「読む、書く、聞く、話す」の４技能を高め、考える力や相手を慮る能力を養う指導も期待したい。資格取得には今後とも力を注ぐとともに、いっそう人間力や課題発見・解決能力を磨く指導体制が AI 時代には大学の大きな魅力になっていくものと思う（時間はかかるだろうが)。

３．本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

中国学園大学が行っている「備中子どもサポーター事業」をはじめとし、いずれも意義深いとりくみであり、大学の強みを地域社会に示していると思う。また、自治体の委託事業の活用を大いに評価したい。受講者に金銭的な負担をかけることなく、質の良い教育活動が展開できるためである。今後も積極的に活用することを提言したい。大学・短大では山陽新聞社と連携して、岡山県キャリア形成訪問指導事業などを活用して、地域に開かれた公開研修を開催している。受講者にとっては無料ということもあり好評と聞いている。社会人と中国学園の接点をつくる機会でもある。今後も、自治体の委託事業の活用を広げていき、中国学園を広くＰＲしてもらいたい。

４．その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

収益改善の一つとして、留学生の受け入れ拡大を考えてはいかがか。学園の女子寮は、受け入れに十分な部屋数を誇ると聞いている。台湾とベトナムの大学と提携していることを生かして、留学生を 2～3 カ月間受け入れ、その間、英語でのレクチャーのほか、企業や自治体を訪問するなどして岡山を堪能するプログラムを設けてもいいのでは。学生獲得に向けての大学・短期大学間競争は今後ますます厳しくなると見込まれる中、先述した社会人・留学生の拡大とともに、真に社会・企業に役立つ人材を一人ずつでもいいので輩出し続け、大学の評価・信用を高める取り組みも進めていただきたい。

大学・短大「ガイドブック 2025」を拝見したが、文字の線が細く、文字も小さく灰色に見えるので、高校生にはいいかもしれないが年配者（ベテラン教諭）には辛いのでは。冊子を大胆なレイアウトにし（要素を絞り)、掲載しきれないもの（生徒がもっと知りたいと思えるもの）は QR コードでデジタルに誘導してもいいのではないか（紙によるプッシュ型とデジタルによるプル型の併用)。

<u>※評価外</u>　ガイドブック 20 頁の上段円グラフの右・国際教養学部国際教養学科の進路実績の合計が 100％を超えている（進路先である一般事務、営業・販売、サービスなどを合計すると 100.2%)。進路決定率 95.5％（未定 4.6％）も合致しない。いずれかの内訳数字の誤植なのかもしれないが、いずれにしても見る人を惑わせる。

＜森田美智子委員（本学卒業生）＞

１．本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

(短大)各学科の教育課程で、学年で就職に向けた資格取得を明確にしている点は評価できる。しかし、２年間の学びでは少々大変そうな気がする。

(大学)［現代生活学部］栄養教育科目と管理栄養士を体系的に編成し、組み合わせた授業科目を開講しているのは評価できる。

［子ども学部］

認定絵本士資格の導入、幼保英語士の資格に必要な授業科目の導入など、これからの子育てにとても重要だと思う。

［国際教養学部］

目標(目的)が広すぎて外部の者からは理解するのが大変のように思う。もっと明解にして欲しい。しかし、学修成果は生徒へのアンケート調査から、授業に出席している人が多く、授業により理解が深まった等の感想から、学生の頑張りや、先生の努力がかい間みえる。

２．本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

学生の活動は、ソフトボールはがんばっている。指導者は誰なのか教えて欲しい。このようなことをもっとアピールすることはできないのか。

３．本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

・年々、入学者が減っている原因は少子化だけでなく「何としても、この学園を良くし守っていく」という気概がないような気がする。その辺りの先生方の気持ちが聞きたい。地域連携にしても、庭瀬に住んでいる私が知らない事も多い。講座等どのようにアナウンスしているのか教えて欲しい。

・図書館の地域開放のアピールを積極的にした方がよいのではないか(大勢が来館しても困るが、利用できることのアナウンス等)

・オープンキャンパスではどのようなことをしているのか

・テレビコマーシャルはインパクトがない(他の大学も)

・同窓会会報は続けて欲しい

・オープンキャンパスはとりあえず来てもらうことが必要。卒業生にコマーシャルをしてもらうことも良いと思う。

４．その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

大学・短期大学と共に歩んでいる中国学園の強みを生かして欲しい。短大資料の P14 にあるように募集戦略の弱みとは何か教えて欲しい。

いろいろと考えてみたが、アピールが不足しているように思う。以前も話をしたが、音楽科が無くなってから右肩下がりはすごいと思う。今後どうすべきか一丸となって考えて欲しい。

Ⅲ．外部評価委員会での議事要旨

１．外部評価委員からの評価等

①赤松一樹委員（岡山県立和気閑谷高等学校校長）

どのように志願者を集めてくるのかが一番の課題ではないかと思い、資料やホームページも見せていただきこの評価書も書かせていただいた。

１．のところでは、一番気になったのは、大学も短大も年度の初めには出席率が良いのだけれど、後半になると授業の出席率が下がってくること。学生さんの授業に対するモチベーションの変化や、特に人間栄養学科のように「授業が難しい」とか「なかなかついていけない」ということがあるのか。それらに対する大学のフォローや支援はどうなのか、学生はそれをどう克服しようとしているのか。

２．のところでは、各学科でいろいろな資格が取れるようになっており、その取得のために先輩や院生が入って支援する取組はいい取り組みだなと見させていただいた。

３．のところでは、地域との取組、連携事業がたくさん読み取れ、こういう取組は本当にいいなと思いながら見せていただいた。ただ、こういった内容をホームページ等からなかなか読み取れない。いろいろな取組の中でこの大学、中国学園じゃないとできないような取組が本当にあるのであれば、そういったものを積極的に取り上げて広報すべきである。

４．のところでは、どのように志願者を集めていくのかということ。

こちらの大学のホームページを拝見して、本当に工夫されて綺麗なホームページだなと思いましたが、パッと目につくのはオープンキャンパスのことと入試の情報。それは多分この大学に来たいと思っている高校生にとっては、オープンキャンパスはいつあるのか、入試はどういう仕組みなのかがわかっていいが、例えば高校生１年とか２年とかで大学探しとか、受験するかどうかわからない時は､そういった内容よりはこの大学は何が面白いのかなとか、何が勉強できるかなといった中身が見たいと思う。その辺りがなかなか見つからない。インスタグラムのページに飛んでいって写真はあるが､この取組ではどんなことやっているのか、もう少し読みたいなと思うところがなかなか見えてこない。学生がどういった取り組みをして学生がどうそこで成長しているが見せてほしい。卒業生のコメントが載っているが、この学校に来てよかったというようなコメントぐらいで、この大学で学んだこういうところが自分の今の職業につながっているとか、何かそういったストーリーみたいなのが読み取れないので、そういったところがもう少し詳しくわかると、この大学をもう少し詳しく見てみようか、オープンキャンパスに行ってみようかとなるのではないか。

②田中宏典委員（山陽新聞社取締役読者局長）

１．については、本当に学園大学・短大とともに「自律創世」という理念をしっかり押さえられている。ガイドブックにある加賀先生の挨拶文に、変化が激しい時代に社会を学び、柔軟に対応できる力を身につけることが大切とある。我々も同感で、ぜひ一人でも二人でも多くの学生さんがそれを具現化することを目標にしていただければと思う。

教育活動について、非常に忙しいとは思うが、本当にこと細かく学生さんに寄り添って丁寧に接していると感じる。課題としては、定員の充足率の点、これはやはり教育機関である以上、いい教育を提供するということがあるが、いい教育を提供するためには、しっかりした財政基盤というものがないとだめだと思う。

そのために、高校新卒で大学に入ってくる方だけではなく、リスキリングが注目されている中、社会に出た方を、年齢を問わずに､「この分野であれば中国学園で今の最新の技術・知識を身につけられる」というものを考えて、そういった人を囲い込んでいくということを一つ考えてトライしてみてもいいのではないか。中国学園大学・短期大学の教員の方が持って

いる高度な知識、時代の流れをつかんだ教育を地域の社会人向けに有料で開放していくようなことがあっても、中国学園の特徴が一つ出てくるのではないか。リスキリングというものを大々的に表に出していって、それで地域企業の人材のスキルアップに寄与していくというのがあってもいいのではないか。

また、留学生についても広げていく必要があるのではないか。

２．については、オフィスアワーはいい取組だと思う。過去３年間、授業の満足度が 90%後半というのは本当にかなり高い満足度だと思う。

就職支援では、就職活動や社会に出てから役立つ質の高い授業に向けて、「聞く、話す、読む、書く」この重視を。この部分が本当に結構欠けているので。SNS で短い文章だけですませている中で、文章を読むことが本当に不得手になっている。そのあたりをぜひしっかり学生に身につけさせてほしい。就職した先で「この子はすごい読解力がある」「行間を読む力がある」「相手が話している内容の裏側が推察できる」と言われるように。そうすることで、加賀先生の挨拶にある「柔軟に対応できる力」が育まれていくと思う。

３．については、本当に「備中子どもサポーター事業」を始めとして、本当に意義深い取組が行われており、大学の強みを地域社会に示していると思う。自治体の委託事業の活用も大いに評価している。

４．については、冒頭に触れた収益改善に、留学生、リスキリングをテーマに掲げて取り組んではどうかということ。

それから「ガイドブック 2025」は、ちょっと年寄りには読みにくい。非常に文字が小さくて、薄くて非常につらい。内容的には十分な紹介がされていると思うが、ここまで盛り込む必要があるのか、もう少し見やすいようにレイアウトし、読みやすい文字にしてはどうか。また、ところどころに QR コードを入れて興味を持った人はそこから詳しい情報を取ってもらうようにすることで、紙とデジタルの融合というガイドブックの作り方があってもいいのではないか。

中国女子短期大学ができたのが昭和 37 年。その時の 18 歳人口が 197 万人。41 年に中国短期大学になった時は 249 万人いました。中国学園大学が開学した 2002 年にはすでに 150 万人に減っている。18 歳人口が急減する中で４年制大学を開学したということは、相当な覚悟・決意を持って開学されたと思うが、それが現在はかなり減ってきて、2020 年が 59 万 7000 人、これが 32 年にはさらに 7 万 4000 人減る。さらに短期大学への進学率が残念ながら減少している。一方、専門学校は微増。４年制大学に行くか専門学校に行くかという傾向が強まる中、短期大学をこれからどうしていくのか、どう特徴づけていくのか、どう学生を集めにいくのか。短期大学には２年を有効に活用して効率的にその後の人生のスタートを切れるという特徴がある。そこをしっかり考えていただき、全国的には短期大学が閉校だったり４年制に移行したりする中、それを安易に考えるのではなくて短期大学としての特徴・機能をもう一回、原点に立ち返って考えていただいて、「中国学園の短期大学はいいところだな」「たった２年でこれだけ身につけられる」ということがしっかり地域に示されるようになればいいなと思う。

それから、中国学園大学・短期大学というのは地域には知名度があると思う。ただこの敷地内に入ったことのない人が多いと思う。この近くに来ても、「中国学園大学こっち」という案内看板が非常に少ない。このエリアに来るとやたらと「中国学園大学」という文字が目につくようなことがあってもいいのではないか。なるべくコストをかけないで一般住民の目に触れるように。

③森田美智子委員（本学卒業生）

私は 41 年入学ですから中国短期大学ができた時の一期生。その時からずっと、悪い時もい

い時も全部見てきている。この学校はとても活気にあふれていて、先生方もものすごくよく練習を引っ張ってくれた。先生たちは本当に骨目を惜しんで朝が夕なにアドバイスし、練習を指導してくれた。卒業生たちはこうした思い出を持ってこの世の中を生きている。

さて、１．について、短期大学は大学と違って、入学してああって言ったらもう２年生になって、もう就職みたいな感じで、とっても忙しい２年間。大変なのに、今時の子はその大変さを「もうやらなきゃ」という気概があまりないですね。だから就職にしても何にしてもどうなのかなと思う。大学は４年間あって、いろいろなことが経験できていいなと思うが、国際教養学部は目標がすごく広すぎて、私にはよくわからなかった。でも、アンケート調査では、授業によって理解が深まったという回答が多く、学生の頑張りや先生の努力が身を結んでいるなと思っている。

２．について、ソフトボールとか横断幕が貼ってあって、すごく嬉しい。ところが新聞を見ても何も書いていない。練習を一生懸命頑張っている。頑張っているから身を結んだと思って、嬉しくなった。指導者が一生懸命やっているのだと思う。ソフトボールが頑張っていることをアピールしていくことも大切。

３．について、年々入学者が減っているが、この原因は少子化だけでなく、もう何としてもこの学園を良くし守っていくっていう気概の問題。これは皆さんどう思っているかお聞きしたい。

地域連携では、庭瀬に住んでいる私が知らないこともある。吉備公民館で情報を得ている住民が多い。図書館で時々講座を開いていると思うが、参加者はとても満足している。だから地域の人に、学校でこういうことをやっていると、もう少しアナウンスしたらどうか。図書館の利用についても同様に。

オープンキャンパスについては中身がよくわからない。とりあえず来てもらうことが必要だと思うが、どう勧誘しているか。

「同窓会会報」はみんなすごく楽しみにしている。同窓会に頑張ってほしいと思う。

４．については、大学・短期大学とともに歩んでいる中国学園の強みを生かしてほしい。短大の自己点検評価書 14 ページに募集戦略の「弱み」とあるが、それは何か。

それからいろいろと全部ひっくるめて、アピール力がない。ＴＶコマーシャルも今ひとつなので、いろいろアイデアを出し合ってはどうかと思う。

④大学からの応答・対応策

＜１．本学の教育活動・教育課程について＞

〇出席率が後期になって低下している点について

・人間栄養学科では当てはまってはいないと思うが、個人個人を見ていたときに、前期は頑張って出席することができるが、後期になると息切れしてしまって休みが多くなる学生、メンタル的な問題があって頑張りたいけど頑張れないという学生がいることは承知している。そういった学生に対する担任からのサポートを行っている。

・欠席だけではなくて、休学や退学する学生もおり、そういう学生に対する個々の学部・学科ごとの支援体制の充実を図っている。その出発点となるのが授業欠席であり、問題が深刻になる前に早期発見、早期対応することを推進している。

・子ども学科では、２週間に１度学科会議を開催して、その際に必ず学生の出席状況について意見交換、状況把握の方に努めており、２回以上欠席した学生にはすぐにその状況を把握してどうしているのか学生の方に連絡をしたり、実習前に欠席がかさんでいたような場合には保護者にチューターの方から連絡を入れて出席するよう依頼したり、成績の状況を見て個別面談を実施したりしている。その結果、また登学できるようになったケースも多々あると感じている。

〇学生の授業外の学修時間が少ない点について
・これについては、先週全学の教職員が参加するＦＤ研修会の中でこの問題を取り上げて、それぞれの学部・学科で学修時間を増やしていくにはどういう指導が必要なのか、対策の検討したところである。その中では、授業外の学修というのは宿題をすることだけではなく、友達と授業の内容について振り返ったり、図書館で本を読んだりすることが学修であり、そうした学修を充実させることなどが出された。
〇人間栄養学科の授業に対する授業評価アンケートの結果について
・人間栄養学科は管理栄養士を養成する課程であり、４年間で管理栄養士の国家試験を受験するためには国家試験のためのカリキュラムをきちんと教えることが求められている。それゆえ、前期 15 回、後期 15 回という限られた授業時間の中で国家試験の準備された内容を指導していかないといけないため、結果としてこういった実態調査の結果になってしまっている。いろいろ学科の中で考えているが、やはり基礎学力が乏しいところから専門的な内容を上に積み上げていくということによる困難感が学生たちに出ている。基礎学力を、特に生物、化学の学力を１年時にしっかり育成するよう取り組まなければならない。もう一つは、管理栄養士の国家試験では４年終わったときに管理栄養士として備えておかないといけない内容が一人一人の学生にきちんと定着していることが求められているが、この実態調査は各学年の個々の授業科目について困難を感じていると言うことだが、４年生での国家試験に向けて４年間各科目で習ってきたことを全部統合して理解し習得することができる集中講義を夏休みに行っている。その集中講義は学生を習熟度別に５グループに分けて、１人の教員がセミナーをする形式で４週間行った。このような対策をすることで、最終的に基本的な知識を身につけさせ、どんな学生でも、現代生活学部に入学すればきちんと管理栄養士の資格を取って卒業できるようにしようと取り組んでいる。
〇リスキリングやキャリアアップのために社会人を対象にしたカリキュラムについて
・以前、中国学園は公開講座を地域の方向けに多数開講してきたが、新型コロナ感染の拡大もあって現在はほとんど行っていない。そういう意味では社会人が本学に来て学ぶ機会が以前に比べると減っている。社会人が本学で学ぶ機会をどのように作っていくのか、我々の宿題として検討していきたい。

＜２．本学の学生の活動や学生支援について＞
〇ＴＡやＳＡの取組が具体的などんな成果がもたらしているか
・子ども学部では、ＴＡは現在大学院生で保育士としてのキャリアが 20 年以上ある方が、授業の中で今まで働いてきたことの経験について話をしたり、指導案の添削などを行っている。
・ＳＡは、学部生が学部生の授業のサポートに入るもので、基礎学力系の授業などで優秀な成績を収めた学生が上の学年に上がったときに下の学年の基礎学力系の授業のサポートに入る取組をしている。ＳＡする学生にとっては、「ここでいい成績取ったら上の学年に上がったらそういうこともできるのか」とモチベーションを高めることにつながっている。
〇学生のメンタル面のサポートについて
・学生部としては、こうした学生を少なくする方策は本学だけでは対応が難しい問題であり、そうした学生に対していかに「合理的配慮」を行い、学生生活に適応できるようサポートするか、学生が卒業するまで相談でき支援される環境を教職員が一丸になって作っていくことが大事だと考えている。
〇短期大学の入学前の教育の取組について
・総合生活学科では、入学前課題を出しており、入学前に学生が何かのテーマに対して文章を書いて入学前に提出してもらっている。それを「フレッシャーズセミナー」という授業

でのレポートの書き方とか、他の授業科目のレポート等を作るときの一つの練習として位置づけている。入学前に出した課題を授業で取り上げて、それを添削して直してあげながら、文章を書く能力を育成している。今後もこの入学前の課題を、提出して終わりではなく、それを授業の中で取り上げて一つ一つ学生にフィードバックをする教育をしていくことが、学生の文章を書く力とか理解度の向上につながるので、継続していきたい。
・田中委員が指摘してくださった「聞く・話す・読む・書く」という基本的な日本語能力の育成が入学前の教育としても重視されているし、それがＮＩＥとも結びつけられていて、総合生活学科では取り組まれている。

＜３．本学の教職員・学園運営・地域連携について＞

〇ソフトボール部の活躍について
・監督が交代し、午前中は学生部で仕事をして、昼からソフトボール部の指導をしている。マネジメントが、監督者が変われば、これだけ変わるのは素晴らしい結果だと思う。学生にやる気を与えて、自信を持たせている。
・日本の大学で３番になったので、「なぜ中国学園ソフトボール部は全国３位になれたのかスペシャル」を山陽新聞に取材に来てほしい。
・ソフトボール部が６月に久米南町の方からの依頼を受けて小学生にソフトボールの指導をした。大変好評だった。こういった社会貢献も素晴らしいと思う。
・地域貢献について、委員から様々なご指摘を受けた。特にそういった取組を上手にアピールすることが必要だというご指摘を真摯に受け止めたい。田中委員からは自治体の委託事業の活用を受けて中国学園を広くアピールすることを、森田委員からは庭瀬に住んでいても知らないことが多いというご指摘をいただいたので、足元の地域に対するつながりを重視していくことに取り組んでいきたい。

＜４．その他、本学に関する評価や意見、改善について＞

〇学生の確保、特に入試の広報について
・赤松委員から校長自らが中学校に行ってどれだけ効果があるのかというお話をいただいたが、全く同じ状況と考えており、まず高校生に直接話ができる機会を捉えていきたい。そのため、いわゆる「高校訪問」以外に、高校の中でのガイダンスや、会場でのガイダンスに入試広報部と先生方が一緒に行き、高校生に具体的な話をしていく活動を積み重ねていきたい。
・ホームページに関する評価については、私たち自身もそう感じており、何とか内容も深めていかないといけないし、見やすさというのも改善していきたい。
・オープンキャンパスは、入試広報課としては資料請求をしてくれた生徒全員に案内を直接送っている。メールアドレスやＬＩＮＥの登録者にも案内を送っている。高校訪問にはチラシを配布し、教室に貼ってもらうよう依頼している。このように高校生に届く方法を模索している。
・オープンキャンパスでは、今年は 11 時から受付開始、受付後、入試広報部、学生部、就職支援部が全体の説明をし、その後希望する学部・学科に分かれる。参加者のアンケートでは、ほとんどの方が「学校のことがよくわかった」「学生さんの様子がすごく素敵だと」といった声をいただいている。
・保育学科では、オープンキャンパスでは、模擬授業と保護者向けも含めた学科紹介が中心。教員が話すよりも、学生たちに学科の説明や、日ごろ自分たちが受けている授業の感想や、展示している学習の成果物についての説明等をしてもらっている。また、高校生と学生が

一緒に話ができるように、ゲームをしたりして一緒に過ごす時間も意識的に取るようにしている。また、オープンキャンパスに来てもらうために、保育学科では岡山南高校と連携して保育系の授業を行っている。それを活用して学科の紹介などをしている。こうした高校との連携を広げていきたい。

・ホームページにはオープンキャンパスと入試の情報だけではなくて、学んでいる学生たちの姿、そして本学での学びがどのようにその先につながっているのかといったストーリーを見せてほしいというご指摘があった。ホームページに載せる情報と、インスタグラム等のＳＮＳに載せる情報との仕分けについて検討し、改善していきます。

・留学生を拡大していくことを田中委員からご提言いただいた。これは現在検討を進めているところである。

・森田委員からは短大自己点検評価報告書 14 頁にある募集戦略の「弱み」について質問があったが、やはり、広報戦略の不十分さが一番不十分なところであった。

＜回答、対応策を聞いて、外部評価委員より＞

① 赤松一樹委員（岡山県立和気閑谷高等学校校長）

・本学に入学してくる生徒が管理栄養士の資格を取るのは大変なことだと思う。本学に来ると、他の大学ではないこういう指導とかこういう手間をかけてもらい、資格取得につながりますよ、というところが受験生に伝わると、「ここでやりたいな」という生徒が出てくるのではないか。こうした学生たちへの支援の様子をＨＰ等でＰＲすることで、それを見て「この学校なら」という思いを持ってくる子も中にはいるのではないか。

② 田中宏典委員（山陽新聞社取締役読者局長）

・人間栄養学科で授業が難しくてついていけないということがあったが、私は今のやり方でいいのではないかと思った。資格を持つ者はプロになるということで、プロである以上はそれにふさわしい知識・技能を持たねばならない。だから、学生がこのくらい感じるぐらいやらないといけないのではないか。資格を取った後きちんと働くためには力がないと地域のためにならないので、そのあたりは大学としては譲らないで、しっかりサポートすることが大切だ。

・今、人材難なので、学生はどこの企業でも結構ハードル低く入社できるようになっているが、学生は「アルバイトしました」「ファーストフードの店長をしました」とか言うばかりで、「なぜこの会社に入りたいか」「４年間何に打ち込んだのか」がない。なので、本学では学生に卒業までに１つのテーマだけ追い求めるというようなことをさせてはどうか。そうすると、就職のときでも「これをしました」と言うことができるし、こういう子は「ちょっと他と違うな」と評価される。就職に向けてこうしたことをやってはどうか。

③ 森田美智子委員（本学卒業生）

・いろいろな国からの留学生を増やすことについて、「言葉の壁」があり、いろいろと大変ではないかと思うが、増えるといい。

・今の学生たちは、アルバイトが一番になっている。アルバイトのために休む学生もいっぱいいる。経済的なことも大変だろうが、もう少し学生には頑張って勉強してほしいと思う。また、アンケートの「先生に相談しましたか」には「あんまりしなかった」という回答が多いので、先生の方からも積極的に「何かあったら相談してね」と言ってほしい。学生がさみしそうにしているときは、積極的にその子の悩みを聞いてあげてほしい。

＜最後に、加賀学長から＞

評価委員の先生方、お忙しいところありがとうございました。

私もこの４月から本学に参りまして、この大学はどういう特徴を持った大学か、どんな先生や学生がいるのかなどを観察して理解している段階でもあり、今日のご意見は大変参考になりました。「本学の特徴」については、結局のところ学生がどのようなものをどのように学べるかということを突き詰めていったところにある気がいたします。

森田委員が「気概」という言葉を使われていらっしゃいましたけれども、大学をどのように変えようとか、また変わろうとしているのか、こういうところが見えてこないのだと思いました。そのために何をすべきかについても一緒に考えていただいきました。「活気のあるところに人は集まってきます」というところですよね。では、その「活気」を出すのはどうしたらいいのか、やはり中身がないと、森田委員の場合は音楽だったかもしれませんし、私の場合は体育だったかもしれません。田中委員がおっしゃった「一つのデーマを突き詰めていく」ところが、大学として確実にすすめるべきことかなと感じました。我々が今できること、一生懸命やっていることを、もっともっと知らせていかないといけないんだろうなと思います。私もだんだんとわかってきたんですけど、すごい成果をあげていらっしゃる先生とか学科とか学部がたくさんあるんです。それはその先生方にとっては普通にしていらっしゃることなんだけども、実は岡山で一番だったりします。施設とか、大学のイベントへの学生の協力とか、就職とか、ずば抜けているところがたくさんあるので、それをアピールしていかないといけないと思いました。

全く私が考えてなかったご意見も頂戴しました。学生をどのように増やしていくかというところはこれからも中心に考えていきますが、社会人ですとか、子どもからお年寄りを含めた地域の皆さんに、大学が持っているものを開いていこうと思いました。大学講座として開くことから始めるんでしょうけども、大学が知的な財産とか施設とかを開放することをより積極的にすすめて、地域に愛していただかないといけないと感じました。「自律創世」がいろんなところに掲示してあるんですけど、結局地域に愛されて、「気概」を持って世の中変えていこう、といった気持ちになれる大学にしていかなければならないと思いました。

具体的なご示唆も多数いただき、参考にすべきところがたくさんございました。それに一つ一つお答えすることはできませんでしたが、今日いただいたご意見を参考にしながら、よりよい学園にするよう努めていきたいと思います。ありがとうございました。

Ⅳ．外部評価に関する規程

中国学園大学外部評価委員会規程

（設置）

第１条　中国学園大学（以下「本学」という。）は、外部評価を実施する機関として中国学園大学外部評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

（目的）
第２条 委員会は、本学における内部質保障の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言を行う。

（任務）
第３条 委員会は、本学が実施する内部質保証の取組及び自己点検・評価の結果について検証及び評価を行う。
２ 委員会は、前項の評価の結果を本学自己点検・評価委員会に報告する。なお、自己点検・評価委員会はこれを内部質保証推進委員会等に報告する。

（委員会の構成）
第４条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本法人の振興及び発展に関心と理解のある学外の学識経験者等３名をもって構成する。
２ 委員は、学長が委嘱する。
３ 前項の委員の任期は、原則として２年とする。ただし、再任を妨げない。
４ 第１項の委員に欠員が生じたときは、速やかに後任委員を選出する。ただし、後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。
５ 外部評価委員会に委員長を置く。
６ 委員長は、委員の互選により推薦し、学長が委嘱する。
７ 委員長は、外部評価委員会を代表し、その業務を統括する。

（委員会の招集）
第５条 委員会の招集は、必要に応じ学長が行う。

（守秘義務）
第６条 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない

（庶務）
第７条 委員会の事務は、事務部総務企画課が担当する。

（改廃手続）
第８条 本規程の改廃は自己点検･評価委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則
この規程は、令和４年９月７日から施行する。

中国短期大学外部評価委員会規程

（設置）
第１条 中国短期大学（以下「本学」という。）は、外部評価を実施する機関として中国短期大学外部評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

（目的）
第２条 委員会は、本学における内部質保障の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言を行う。

（任務）
第３条 委員会は、本学が実施する内部質保証の取組及び自己点検・評価の結果について検証及び評価を行う。
２ 委員会は、前項の評価の結果を本学自己点検・評価委員会に報告する。なお、自己点検・評価委員会はこれを内部質保証推進委員会等に報告する。

（委員会の構成）
第４条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本法人の振興及び発展に関心と理解のある学外の学識経験者等３名をもって構成する。
２ 委員は、学長が委嘱する。
３ 前項の委員の任期は、原則として２年とする。ただし、再任を妨げない。
４ 第１項の委員に欠員が生じたときは、速やかに後任委員を選出する。ただし、後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。
５ 外部評価委員会に委員長を置く。
６ 委員長は、委員の互選により推薦し、学長が委嘱する。
７ 委員長は、外部評価委員会を代表し、その業務を統括する。

（委員会の招集）
第５条 委員会の招集は、必要に応じ学長が行う。

（守秘義務）
第６条 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない

（庶務）
第７条 委員会の事務は、事務部総務企画課が担当する。

（改廃手続）
第８条 本規程の改廃は、自己点検･評価委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則
この規程は、令和４年９月７日から施行する。